

平成24年度

4月▶6月(Vol.1)

アイヌ語 ラジオ講座テキスト

講師 押野 朱美・押野 里架

Vol.1



放送内容はインターネットでも配信しています。

STVホームページ <http://www.stv.ne.jp/radio/ainugo/index.html>

講師のプロフィール



里架さん

朱美さん

おし の あけ み おし の り か
押野 朱美(姉) 押野 里架(妹)

むかわ町出身の双子姉妹。幼少期から祖母や母の影響で、アイヌの唄や踊りに触れる。中学生の時、カナダ先住民との交流経験によりアイヌ民族への関心が高まり、アイヌ語・アイヌ文化を本格的に学び始める。

アイヌ語指導者育成事業 第5期修了生。

苫小牧駒澤大学国際文化学部国際文化学科卒業。

白老町役場企画振興部企画制作課アイヌ施策推進室学芸員(里架さん)。

協力者の紹介

■支援研究者

さ とう とも み
佐藤 知己

北海道大学大学院文学研究科教授。同アイヌ・先住民研究センター兼務教員。研究分野は言語学・アイヌ語・北方言語。研究内容はアイヌ語を中心とする言語の記述的、文献的研究。

主著に、『アイヌ語文法の基礎』(大学書林, 2008年)

■文化指導

よし むら ふゆ こ
吉村 冬子

むかわ町在住。両講師の祖母。日常生活の中でアイヌ語を身につける。昭和59年鶴川アイヌ文化伝承保存会の設立当初から会員として古式舞踊・儀礼・口承文芸など伝承保存活動を行う。

平成6年から鶴川アイヌ語教室助手、講師を務める。

平成10年アイヌ語弁論大会最優秀賞受賞。

その他、多数の講演、執筆活動を実施。

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

現在のところアイヌ語には共通語というものはなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。そのため、このテキストでは担当講師の方言(鶴川の方言)をベースにしています。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	LESSON	テ - マ	ページ
4月	1日	1	アイヌ語の発音—母音の発音	4
	8日	2	アイヌ語の発音—子音の発音	6
	15日	3	音節とアクセント	8
	22日	4	言葉の並べ方(語順)	10
	29日	5	イヨンルイカ iyonruyka 子守唄(1)	12
5月	6日	6	人称接辞(1)—「私が」、「お前が」、「彼が、彼女が、それが」	14
	13日	7	人称接辞(2)—ク ku- とク k-	16
	20日	8	人称代名詞	18
	27日	9	イヨンルイカ iyonruyka 子守唄(2)	20
6月	3日	10	自動詞と他動詞(1)	22
	10日	11	自動詞と他動詞(2)	24
	17日	12	人称接辞(3)—「私達が」、「お前達が」、「彼らが」	26
	24日	13	イヨンルイカ iyonruyka 子守唄(3)	28

例(発音を聞きましょう)

1. ア a を含む言葉の例:

ア	a	「座る」
アン	an	「ある、いる」*

*アイヌ語では「ある、いる」はどちらもアン an で表されます。人が「いる」のも「アン an」、テレビが「ある」のも「アン an」です。

2. イ i を含む言葉の例:

イテキ	iteki	「決して」
イヌ	inu	「聞く」

3. ウ u を含む言葉の例:

ウライ	uray	「やな(川に沈めて魚を捕るための仕掛け)」*
ウセイ	úsey	「お湯、お茶」*

*ウライ uray は「ラ」が高いですが、ウセイは「ウ」が高いです。アイヌ語は、言葉によって声の上げ下げ(アクセント)が決まっているのです。日本語の「箸」と「橋」の区別とよく似た区別がアイヌ語にもあるわけです。アクセントについてはまた後で説明します。

4. エ e を含む言葉の例:

エ	e	「食べる」
エント	ento	「ナギナタコウジュ」

*おばあちゃんが話してくれましたが、昔は、オプケニ opkeni 「コブシ(おばあちゃんは「シロサクラ」と言っていました)」、キキンニ kikinni 「ナナカマド」のような香りのする木の皮や細い枝を煮出して、お茶のようにして飲んだそうです。ここで出て来たエント ento は縮めた言い方で、普通はセタ エント seta ento と呼びますが、「ナギナタコウジュ」という草のことです。この草も煮出してお茶として飲んだそうです。今で言えば一種のハーブティーですね。風邪や咳に効き、体に良いと言われていました。

5. オ o を含む言葉の例:

オマレ	omare	「入れる」
オヤ	oya	「他の」

解説

「アイウエオ」のような発音を「母音」と呼びます。日本語には「アイウエオ」という五つの母音があります。いくつかの母音を使うかは言葉によって違います。たとえば英語には日本語よりもたくさんの母音があります。例からわかるように、アイヌ語の母音も日本語と同じで五つです。ただ、日本語と違うのは、アイヌ語の「ウ u」は日本語の「ウ u」よりもほんの少しだけ唇の「突き出し」が強い点です。そのため、昔のアイヌ語の音声を聞くと「オ o」と「ウ u」が聞き分けにくいことがあります。ただし、日本語の「ウ」で真似をしても通じますし、間違いではないので、注意はしながらも、あまり細かい点にはじめからこだわらず、どんどん先へ進みましょう。

例文

後について言ってみましょう(三回)。

ア	a	「座る」
アン	an	「ある」
アニ	ani	「～で」

イテキ	iteki	「決して」
イヌ	inu	「聞く」
インネ	inne	「数多くの」

ウライ	uray	「やな(川に沈めて魚を捕るための仕掛け)」
ウセイ	úsey	「お湯、お茶」
ウン	un	「～へ」

エ	e	「食べる」
エント	ento	「ナギナタコウジュ」
エアニ	eani	「お前」*

*アイヌ語では母音が二つ続くのはあまり好まれません。どうしても続く時はいくつかの方法でなるべくそれを避けようとしています。ここで出て来たエアニ eani 「お前」という言葉の場合も、「エア ea」のように二つの母音が続いていますが、実際には「エ・ア」のように区切って発音して母音の連続を避けるのが普通です。ですから、実際の発音は、「エ・アニ」のようになることが多いのです。この点についてはまた後で説明します。

オマレ	omare	「入れる」
オヤ	oya	「他の」
オカ	oka	「ある、いる」*

*「ある、いる」は前に「アン an」という言葉をあげましたが、アイヌ語にはもう一つ「オカ oka」という言葉もあります。これは「複数形」と呼ばれるものです。「アン an」は、同じ「ある、いる」でも単数形で、「一つのもの、一人の人などが、ある、いる」という意味なのに対し、「オカ oka」は、「二つ以上のもの、二人以上の人などが、ある、いる」という意味を表します。少し難しいですが、これも後で説明します。

例(発音を聞きましょう)

p の例:アエプ	aep	「食べ物」
t の例:クルマツ	kurmat	「奥さん、婦人」*
*アイヌ民族ではない日本人の女性をさすていねいな言葉。		
k の例:エク	ek	「来る」
c の例:チエプ	cep	「魚」
s の例:アプカシ	apkas	「歩く」
r の例:コル	kor	「持つ」
n の例:アン	an	「ある、いる」
m の例:イサム	isam	「ない」
y の例:ウセイ	úsey	「お湯、お茶」
w の例:オハウ	ohaw	「おつゆ、スープ」
h の例:ヘマンタ	hemanta	「何」

解説

普通はあまり意識しませんが、「カ」という音は k-a という二つの音でできています。「ア a」はそれだけで発音することができますが k は普通はそれだけで使われることはありません。このような音を子音と言います。アイヌ語には p, t, k, c, s, r, m, n, y, w, h という十一個の子音があります。

p, t, k が言葉の最後や途中の切れ目(音節の切れ目)に来る時、息を止めます。発音のこつは、「アエプ aep」でしたら「アエツパ」と発音するつもりで「アエツ…」で止めてしまう、「クルマツ kurmat」でしたら、「クルマツタ」と発音するつもりで「クルマツ…」で息を止めてしまう、「エク ek」でしたら、「エツカ」と発音するつもりで「エツ…」で止めてしまうというものです。こうすると正しい発音になります。講師の発音をよく聞いてこつをつかんでください。カタカナで書く時は、小字の「プ」、「ツ」、「ク」を使います。

s が言葉の最後に来る時や途中の切れ目に来る時は、ふつうは唇に指を当てて「しーっ」という時に近い音になります。これを小字の「シ」で書きます(小字の「ス」で書くほうが実際の発音に近い場合もありますがこのテキストでは「シ」に統一してあります)。

r が言葉の最後に来る時や途中の切れ目に来る時は軽く「ル」を添えます。はっきりした「ル」でなく、短く軽く発音する「ル」なので、小字の「ル」で書きます(前の母音の音色によって、小字「ラ」、「リ」、「レ」、「ロ」で書くほうが適当な場合もありますが、このテキストでは「ル」に統一してあります)。

m が言葉の最後に来る時や途中の切れ目に来る時は唇を閉じて軽く「ム」と発音します。「さんま」と発音するつもりで、「さん」で発音を止めてしまうと正しい発音になります。

y は「イ」、w は「ウ」と同じ音ですが、言葉の最後に来る時や途中の切れ目に来る時は軽く添えるような感じで短く弱く発音します。「塀(へい)」だと「へ」も「い」も強くはっきり発音されますが、「ペイする」の「ペイ」は全体で一続きに発音されて「イ」は「ペ」に軽く添えられるだけです。「ウセイ úsey」の「セイ」も「ペイ」のような発音だ、と覚えて下さい。

最後になりますが、実はこれまでに説明した十一個の子音の他に、専門的にはもう一つ子音を認めることがあります。それは、前の課で述べた「エアニ eani お前」のように、「エア」という二つの母音が続く時に間を区切る発音です。これを「'」という記号を使って、ローマ字では e'ani と書き表すことがあるのです。この区切りを表す音は、わざわざ書かなくてもあまり困らないことが多いので、このテキストでは省略しています。

例題

発音してみましょう。

アプト	apto	「雨」
サツケ	satke	「干す」
オッカヨ	okkayo	「男」
カル	kar	「作る」
ピルカ	pirka	「よい」

*r の前や後ろに i があると、r は「リ」に近く発音される場合がほとんどです。ですから、pirka の実際の発音は「ピリカ」に近く、「ピルカ」と発音されることはありません。しかし、同じ音の場合によって「ル」で書いたり「リ」で書いたりすると不統一なのでここでは pirka「ピルカ」と書いています。はじめは変に思うかもしれませんが、だんだんに慣れて下さい。

カム	kam	「肉」
コタン	kotan	「村」
エラムペウテック	eranpewtek	「わからない」
ルスイ	rusuy	「～したい」

MEMO

例

オッカヨ	okkayo	「男」
マツカチ	matkaci	「女の子」
アプカシ	apkas	「歩く」
コタン	kotan	「村」
メノコ	menoko	「女」
トノト	tónoto	「酒」
ウセイ	úsey	「湯」

解説

一つ一つの言葉は、普通は一続きに発音されますが、ゆっくり切って発音することもできます。日本語の「頭」をゆっくり切って言うと、「あ・た・ま」のように三つに区切って発音できます。このような一区切りを「音節」と言います。「頭」は三音節の言葉、ということになります。アイヌ語も、音節にゆっくり切って発音することができます。たとえば、例にあげた言葉は、それぞれ、次のように音節に区切ることができます。

オク・カ・ヨ	ok-ka-yo	「男」	(三音節)
マツ・カ・チ	mat-ka-ci	「女の子」	(三音節)
アプ・カシ	ap-kas	「歩く」	(二音節)
コ・タン	ko-tan	「村」	(二音節)
メ・ノ・コ	me-no-ko	「女」	(三音節)
ト・ノ・ト	tó-no-to	「酒」	(三音節)
ウ・セイ	ú-sey	「湯」	(二音節)

コ ko、カ ka、ヨ yo、メ me、ノ no、ト to、ウ u のように母音で終わる音節を「開音節」と言います。これに対してオク ok、マツ mat、アプ ap、タン tan、セイ sey のようにk、t、p、n、y のような子音で終わる音節は「閉音節」と言います。日本語のいわゆる「つまる音」や「はねる音」で終わる音節（「あん」、「あっ」など）も閉音節です。アイヌ語の閉音節も、日本語の「つまる音」や「はねる音」で終わる音節の一種とすることができます。

MEMO

「閉音節」と「開音節」の区別はアイヌ語ではとても大切です。それは言葉のアクセントと密接な関係があるからです。アイヌ語のアクセントは、もし閉音節で始まっていればその音節に、開音節で始まっていれば普通は第二音節にあり、そこが高く発音されます。

オク・カ・ヨ	ok-ka-yo	「男」	(高低低)
マツ・カ・チ	mat-ka-ci	「女の子」	(高低低)
アプ・カシ	ap-kas	「歩く」	(高低)
コ・タン	ko-tan	「村」	(低高)
メ・ノ・コ	me-no-ko	「女」	(低高低)

ただし、一番最初の「高」さえ原則に従っていればよいので、それ以降の高低は厳密には一つに決まっています。たとえば、オッカヨ okkayo は「高低低」、「高高低」、「高高高」のいずれで発音しても正しい発音ということになります（最初の閉音節が「高」であるのは不変）。これに対し、「低高高」は閉音節であるにもかかわらずそこが低く発音されることになるのであまりよくない発音ということになります。はじめはあまり神経質にならず、だんだんに慣れて行けばよいでしょう。

実はアクセントの原則にはあまり数は多くありませんが例外があります。ト・ノ・ト tó-no-to 「酒」、ウ・セイ ú-sey 「湯」は「ト to」、「ウ u」という開音節で始まっています。アクセントの原則通りだと、本来は第二音節が高くなり、トノト tonoto (低高低)、ウセイ usey (低高低)となるはずですが、しかし、これらは例外的に第一音節が「高」で発音されます。このテキストではこのような例外的な第一音節のアクセントだけをtó-no-to のようにアクセント記号を付けて表します。アクセントの原則通りの場合は特にアクセントを示さないことにします。

例題

アクセント記号を付けて発音してみましょう。

1. satke **サツケ** 「干す」
2. kotan **コタン** 「村」
3. tonoto **トノト** 「酒」
4. usey **ウセイ** 「湯」

MEMO

例文

(1) マカナク ネ シリ アン?

makanak ne siri an?
どう である 様子 ある

【(外は)どんな様子であるの?】

(2) タネ アプト ルイ コル アン ワ。

tane apto ruy kor an wa.
今 雨 降る て いる よ

【今、雨が降っているよ。】

(3) タント アナクネ シリウエン ワ アプト ルイ コル アン。

tanto anakne sirwen wa apto ruy kor an.
今日 は 天気が悪い て 雨 降る て いる

【今日は天気が悪くて雨が降っている。】

単語

アイヌ語	日本語訳	備考
アナクネ	anakne	～は
アプト	apto	雨
アン	an	ある、いる
コル	kor	～て
シリ	siri	様子、有様
シリウエン	sirwen	天気が悪い
タネ	tane	今
タント	tanto	今日
ネ	ne	である
マカナク	makanak	どう
ルイ	ruy	降る
ワ	wa	～て
ワ	wa	～よ、ね

MEMO

解説

やさしいアイヌ語の文をいくつか例に出してみました。アイヌ語の下に付けた日本語の訳をみてください。日本語の訳をそのままつなげただけで、だいたい意味のわかる日本語になるのがわかるでしょう。このことからわかるように、アイヌ語の言葉の並べ方は、日本語とほとんど同じです。ですから、単語の意味さえわかれば、だいたいの意味をとることができます。大きな違いは、否定の作り方です。日本語だと、「食べない」のように「ない」が「食べる」の後に来ますが、アイヌ語では「ない・食べる」のような順序になることがあります。この例外については後で詳しく学びます。ここでは「大体日本語と同じ」ということで先に進みましょう。

例題

次の文を発音して、日本語に訳しなさい。また、1)、2) をAさん、3)をBさんになったつもりで、会話のように言ってみましょう。

1) シリピリカ ヤクン ソイ タ ネフキ ネ ヤッカ エアシカイ。

sirpirka yakun soy ta nepki ne yakka easkay.
天気が良い ならば 外 で 仕事 ても できる

2) マカナク ネ シリ アン?

makanak ne siri an?

3) タネ アプト ルイ コル アン ワ。

tane apto ruy kor an wa.

MEMO

アイヌ語① ニウエン ホリッパ

吉村冬子フチから聞いたお話です。昔、汽車にひかれて亡くなった方がいて、亡くなった方を家に連れ帰ったとき、すぐ屋内に入れず、男性と女性が3～4人ずつ、男性は刀を持って「ホ～、ホ～」と言い、女の人や男の人の後から「ホ～、ホ～」と声を出しながら、玄関からイノウチバ(屋外にある祭壇)まで行進していたのを見たことがあるそうです。

新井田セイノ フチ

モコル トット ランラン
mokor totto ranran

お乳を飲んで寝なさい。

ハムキカ ネナ
hamukika nena

ねんねするんだよ

オツホレンカ スイエ
ohhorenka suye

(あやす声) ゆりかごを揺らすよ

オツホル オツホへ オツホル オツホへ
ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe

(あやす声)

繰り返し

MEMO

単語

アイヌ語		日本語訳	備考
モコル	mokor	寝る	
トット	totto	お乳	
ランラン	ranran	次々と降る	
ハムキカ	hamukika	ねんねする	
ネナ	nena	するんだよ	
スイエ	suye	揺らす	

MEMO

アイヌアキ② 口笛

私たちは幼い頃、暗くなってから口笛を吹くと泥棒が来るだとか、蛇が来るだとか母親によく言われましたが、新井田セイノフチからは、「キビヤアワを脱殻するとき、殻が風で飛ぶように箕を振るんだけど、風がない時には、口笛を吹くと、風が吹いてくれるんだよ」と教えてもらいました。

例文

(1) ヘマンタ エコン ルスイ?

hemanta e-kon rusuy?
何 君は持つ たい?

「君は何が欲しい?」

(2) アエプ クコン ルスイ。

aep ku-kon rusuy.
食べ物 私は持つ たい

「私は食べ物が欲しい。」

(3) スサム アナクネ ケラアン。

susam anakne kéraan.
シシャモ は おいしい

「シシャモはおいしい。」

単語

アイヌ語		日本語訳	備考
アエプ	aep	食べ物	
アナクネ	anakne	～は	
エ	e-	君が	*男女に関わりなく使えますが、親しい間柄で使われることに注意して下さい。また、場合によっては「君は」と訳したほうが良い場合もあります。
ク	ku-	私が	*男女に関わりなく使えます。場合によっては「私は」と訳したほうが良い場合もあります。
ケラアン	kéraan	おいしい	*ケラアン keraan は第一音節が「ケ ke」で、母音で終わる「開音節」ですから、第3課で勉強したように、本来であればケラアン keráan(低高低)のように発音されるはずですが、この言葉はアクセントの例外で、第一音節の「ケ ke」が高く発音されます。
コル	kor	持つ	
コン	kon	持つ	コロ ルスイ kor rusuy は発音しにくいので、コル kor がコン kon と発音されたもの。
スサム	susam	シシャモ	
ヘマンタ	hemanta	何	
ルスイ	rusuy	～したい	

解説

「コル kor 持つ」に「ルスイ rusuy ～たい」を付けた「コル ルスイ kor rusuy」という言い方は、「欲しい」という意味を表します。ところで、アエプ aep「食べ物」の後に「を」に当たる補助的な言葉を入れなくてもいいのか、と疑問に思うかもしれませんが、英語と同じように、アイヌ語には「を」にあたる言葉がないので、アエプ aep「食べ物」には何も付ける必要はありません。

さて、この課で最も大切な点は、コル kor「持つ」という動詞の変化です。「私が持つ」のか、「君が持つ」のかによって、コル kor「持つ」は、クコル ku-kor「私が持つ」、エコル e-kor「お前が持つ」のように形を変えるのです(このことを文法用語では「動詞の人称変化」と言い、ク ku-「私は、私が」、エ e-「君が、君は」のような要素を人稱接辞と言います)。ここではまず「私が(私は)」、「君が(君は)」という人稱接辞を覚えましょう。人稱接辞は「私が」、「君が」という意味ですが、次の言葉とぴったりくっついていて、それだけで使われることがない、という点に注意して下さい。「誰だ?」と聞かれて、「私!」と答える時に、ただ「ク ku-」と言っても通じません。独立性がないわけです。「おかあさん」の「お」だけを独立して使うことができないのと同じです。

「誰か」を表現する時、アイヌ語では「私が」ならば「ク ku-」、「お前が」ならば「エ e-」を付けますが、「彼が、彼女が、それが」の場合はどうなるのでしょうか。例文(3)を見て下さい。スサム susam「シシャモ」は「私が」(一人称)、でも「お前が」(二人称)でもない、「それが」で表現されるような意味(三人称)の要素です。ところが、ケラアン keraan「おいしい」には、「それが」を意味する要素はどこにも付いていません。つまり、「彼が、彼女が、それが」(三人称)の意味の場合は、何も付かないのです。逆に言えば、何も付いていなければ「彼が、彼女が、それが～する」という意味を表すのが原則です(例外は命令の表現ですが、これについては後で学びます)。

例題

次の空白に合う言葉(人稱接辞)を入れて発音して下さい。

1) ヘマンタ ()コン ルスイ?

hemanta () kon rusuy?
何 君は 持つ たい?

2) アエプ ()コン ルスイ。

aep () kon rusuy.
食べ物 私は 持つ たい。

3) スサム アナクネ ()ケラアン

susam anakne () kéraan
シシャモ は おいしい

例文

(1) コムケカル ワ ソンノ クヤイヌウェン ワ。
 k-omkekar wa sonno ku-yaynuwen wa。
 私は風邪をひく て 本当に 私は具合が悪い よ

「私は風邪をひいて本当に具合が悪いよ。」

(2) エオムケカル ハウエ ネ ヤクン
 e-omkekar hawe ne yakun
 おまえが風邪をひく 話 である ならば

キキンニ ウセイ クカル ワ カン ナ。 「お前が風邪をひいたという話であるなら
 kikinni usey ku-kar wa k-an na. ば私はナナカマドのお茶を作っているよ。」
 ナナカマド 湯 私が作る て 私がいる よ

単語

アイヌ語		日本語訳	備考
アン	an	ある、いる	
ウセイ	úsey	湯、お茶	
エ	e-	お前が、お前は	
オムケカル	omkekar	風邪をひく	
カル	kar	作る	
キキンニ	kikinni	ナナカマド	
ク	k-	私が、私は	
ク	ku-	私が、私は	
コムケカル	k-omkekar	私は風邪を引く	
ソンノ	sonno	本当に	
ナ	na	～よ	
ネ	ne	である	
ハウエ	hawe	話	
ヤイヌウェン	yaynuwen	具合が悪い	
ヤクン	yakun	～ならば	
ワ	wa	～て	
ワ	wa	～よ	

解説

既に「私は、私が」を意味するク ku- という形を学びました。この形は省略できない、必ずつけなければならない形であることも既に学びましたね。

さて、この「ク ku-」という形は、さらに弱まって k-(u が落ちる)となってしまうことがあります。例えば、オムケカル omkekar「風邪をひく」を「私が風邪をひく」という意味にしたければ、ク ku-「私は、私が」を付けて、クオムケカル ku-omkekar とすれば良いはずですが、実際にはそうはなりません。例文のように、コムケカル k-omkekar と、短く縮まった形になります。

このような短縮は、ア、ウ、エ、オで始まる言葉の前に「ク ku-」が付いた時に起こり、それぞれ、カ、ク、ケ、コのように発音されます(イの前では短縮は起こりません)。なお、この短縮は、鶴川方言、千歳方言、沙流方言などの一部の方言でしか起こらない、アイヌ語全体としてみると非常に特殊な現象だと言われています。

例題

次の空白に合う言葉(人称接辞)を入れて発音して下さい。

- 例文(1)、(2)を二人の人の会話のつもりで、それぞれ言ってみましょう。
- オムケカル omkekar「風邪を引く」、ヤイヌウェン yaynuwen「具合が悪い」から、「私が風邪を引く」、「私が具合が悪い」という形を作りなさい。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

アイヌブリ③ お祓い

身内が屋外でなくなった時、家に入れる前にヨモギを使い、亡くなった人を「フッサフッサ」という掛け声とともにお祓いしていたそうです。昔はタチイチゴ(別名:クマイチゴ)でお払いをしていたそうですが、タチイチゴがない場合、ヨモギを使って行っていたそうです。それでもない場合は、塩を使っていたとフチたちが教えてくれました。イチゴの茎にはとげが密生しています。鋭いとげは病魔が恐れて近づかないと考えられています。

例文

(1) コムケカル ワ ソンノ クヤイヌウェン ワ。
 k-omkekar wa sonno ku-yaynuwen wa。
 私は風邪をひく て 本当に 私は具合が悪い よ

「私は風邪をひいて本当に具合が悪いよ。」

(2) エオムケカル ハウエ ネ ヤクン
 e-omkekar hawe ne yakun
 おまえが風邪をひく 話 である ならば

キキンニ ウセイ クカル ワ カン ナ。 「お前が風邪をひいたという話であるなら
 kikinni usey ku-kar wa k-an na。 ば私はナナカマドのお茶を作っているよ。」
 ナナカマド 湯 私が作る て 私がいる よ

単語

アイヌ語		日本語訳	備考
アン	an	ある、いる	
ウセイ	úsey	湯、お茶	
エ	e-	お前が、お前は	
オムケカル	omkekar	風邪をひく	
カル	kar	作る	
キキンニ	kikinni	ナナカマド	
ク	k-	私が、私は	
ク	ku-	私が、私は	
コムケカル	k-omkekar	私は風邪を引く	
ソンノ	sonno	本当に	
ナ	na	～よ	
ネ	ne	である	
ハウエ	hawe	話	
ヤイヌウェン	yaynuwen	具合が悪い	
ヤクン	yakun	～ならば	
ワ	wa	～て	
ワ	wa	～よ	

解説

既に「私は、私が」を意味するク ku- という形を学びました。この形は省略できない、必ずつけなければならない形であることも既に学びましたね。

さて、この「ク ku-」という形は、さらに弱まって k-(u が落ちる)となってしまうことがあります。例えば、オムケカル omkekar「風邪をひく」を「私が風邪をひく」という意味にしたければ、ク ku-「私は、私が」を付けて、クオムケカル ku-omkekar とすれば良いはずですが、実際にはそうはなりません。例文のように、コムケカル k-omkekar と、短く縮まった形になります。

このような短縮は、ア、ウ、エ、オで始まる言葉の前に「ク ku-」が付いた時に起こり、それぞれ、カ、ク、ケ、コのように発音されます(イの前では短縮は起こりません)。なお、この短縮は、鶴川方言、千歳方言、沙流方言などの一部の方言でしか起こらない、アイヌ語全体としてみると非常に特殊な現象だと言われています。

例題

次の空白に合う言葉(人称接辞)を入れて発音して下さい。

- 1) 例文(1)、(2)を二人の人の会話のつもりで、それぞれ言ってみましょう。
- 2) オムケカル omkekar「風邪を引く」、ヤイヌウェン yaynuwen「具合が悪い」から、「私が風邪を引く」、「私が具合が悪い」という形を作りなさい。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

アイヌブリ③ お祓い

身内が屋外でなくなった時、家に入れる前にヨモギを使い、亡くなった人を「フッサフッサ」という掛け声とともにお祓いしていたそうです。昔はタチイチゴ(別名:クマイチゴ)でお払いをしていたそうですが、タチイチゴがない場合、ヨモギを使って行っていたそうです。それでもない場合は、塩を使っていたとフチたちが教えてくれました。イチゴの茎にはとげが密生しています。鋭いとげは病魔が恐れて近づかないと考えられています。

例文

(1) カニ アナクネ ムカワ ウン メノコ クネ ワ。
 kani anakne Mukawa un menoko ku-ne wa。
 私 は 鷗川 の 女 私はである よ

「私は鷗川の女だよ。」

(2) エアニ ヘマンタ エカル コル エアン シリ アン？
 eani hemanta e-kar kor e-an siri an？
 お前 何 お前が³する て お前が³いる 様子 ある

「お前は何をしているところなの？」

単語

アイヌ語	日本語訳	備考
アナクネ anakne	～は	
アン an	ある、いる	
ウン un	～に住んでいる、～の	
エ e-	お前が、お前は	
エアニ eani	お前	
カニ kani	私(男女を問わず使えます)	
カル kar	する、作る	
ク ku-	私が、私は	
コル kor	て	
シリ siri	様子、有様	
ネ ne	～だ、～である	
ヘマンタ hemanta	何	
ムカワ Mukawa	鷗川	*ムカワ(鷗川)はもともとはアイヌ語ですが、日本語風な表現のようで、「ムカ muka」のほうが古い言い方ようです。
メノコ menoko	女	
ワ wa	～よ	

MEMO

解説

カニ kani は「私」に当たる言葉です。第1課で既に学んだ「ク ku-」も「私は、私が」に当たる言葉だったので、アイヌ語には日本語の「私」に当たる言葉として、「ク ku-」と「カニ kani」の二つがある、ということになります。

ただし、使い方が違うことに注意して下さい。「カニ kani」は、「私」という意味を強調したい時に使う、独立性の高い言葉(人称代名詞)です。これに対して、「ク ku-」は、この場合「ネ ne ～だ、～である」に必ずくっつけて使わなければならない独立性が低い言葉(人称接辞)です。最初の、「カニ アナクネ kani anakne 私は」という表現は、「私」を特に強調するために置かれたものですから、強調したい場合でなければ、なくても構わない要素なのです。だから、最初の「カニ アナクネ kani anakne」を省いてしまって、ただ、「ムカワ ウン メノコ クネ ワ。 Mukawa un menoko ku-ne wa」と言っても正しいアイヌ語になります。

これに対して「ネ ne ～だ、～である」の前の「ク ku- 私は、私が」を落とすことはできません。また、「お前」はエアニ eani(人称接辞は「エ e-」)です。

なお、三人称の代名詞に当たるものは普通はありません。トアン クル toan kur「あの人」のようなさまざまな具体的な言い方をします。

例題

次の空白に自分の住んでいる場所の名前を入れて言ってみましょう。
 (女性だったらメノコ menoko「女」、男性だったらオッカヨ okkayo「男」を使いましょう。)

カニ アナクネ ()ウン メノコ(またはオッカヨ) クネ ワ。
 kani anakne un menoko/okkayo ku-ne wa。
 私 は の 女/男 私はである よ
 「私は～の女/男だよ。」

MEMO

イヨルイカ iyonruyka 子守唄(2)

三上トシ子 フチ

オツホル オツホへ オツホル オツホへ オツホル オツホへ
ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe

(あやす声)

モコル トット ランラン モコル トット ランラン
mokor totto ranran mokor totto ranran

お乳を飲んで寝なさい。

お乳を飲んで寝なさい。

オツホル オツホへ オツホル オツホへ オツホル オツホへ
ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe

(あやす声)

エチシ ヤッカ ウエンナ エチシ ヤッカ ウエンナ
ecis yakka wenna ecis yakka wenna

泣いたらだめだよ。

泣いたらだめだよ。

繰り返し

MEMO

単語

アイヌ語		日本語訳	備考
モコル	mokor	寝る	
トット	totto	お乳	
ランラン	ranran	次々と降る	
エ	e-	お前	
チシ	cis	泣く	
ヤッカ	yakka	したら	
ウエン	wen	悪い	
ナ	na	よ	

MEMO

アイヌ語④ フチ イタク

吉村冬子フチのお母さんとお父さんは、アイヌ語で会話をしていました。祖母はアイヌ語をもっと学びたかったのですが、「お前の時代にはアイヌ語は必要ないんだ」と言われ、教えてもらえませんでした。しかし、冬子フチのお母さんはウウエペケレ(昔話)が上手な人だったので、それをこっそり聞いてアイヌ語を覚えていたそうです。

例 文

(1) トノト ク ヤン。
tónoto ku yan.
酒 飲む なさい

「お酒を飲みなさい。」

(2) イク コル パテク アン。
iku kor patek an.
飲む て ばかり いる

「(酒を)飲んでばかりいる。」

(3) イペ ヤン。
ipe yan.
食べる なさい

「食べなさい。」

(4) オハウ エ ヤン。
ohaw e yan.
おつゆ 食べる なさい

「おつゆを食べなさい。」*

* オハウ ohaw は「おつゆ、スープ」のことですが、具がたくさん入っているのが普通なので、「食べる」というわけです。

単 語

アイヌ語		日本語訳	備考
アン	an	いる	
イク	iku	(酒を)飲む (自動詞)*	*イク iku は、もともとは「何かものを飲む」という意味の自動詞ですが、意味が特殊化して、今ではもっぱら「酒を飲む」意味で使われます。日本語でも「飲みに行こう」と誘われて、「牛乳を飲みに行こう」と解釈する人はいませんが、これと似ています。
イペ	ipe	(ものを)食べる (自動詞)	
エ	e	食べる	
オハウ	ohaw	おつゆ	
ク	ku	飲む (他動詞)	
コル	kor	～て	
トノト	tónoto	酒	
パテク	patek	～ばかり	
ヤン	yan	～なさい	

解 説

アイヌ語の動詞(動作、状態などを表す言葉)は、「自動詞」と「他動詞」の二つに大きく分かります。日本語にも自動詞と他動詞の区別があります。

たとえば、「本を読む」の「読む」は「本を」という動作の対象物(目的語)を取っているので「他動詞」です。これに対して「倒れる」は一人で勝手に倒れるわけで、対象物(目的語)を必要としません。こういうのは「自動詞」です。もともと、日本語の場合は、同じ動詞が自動詞的にも他動詞的にも使えます。「何も食べたくない」という意味で、ただ「食べたくない」と言っても、それほど不自然ではありません。しかし、アイヌ語の場合は、「何も食べたくない」の場合は、「何も」という目的語を取っているため、「エ e 食べる」(他動詞)という言葉を使わなければなりません。これに対して、何も目的語を取らない「食べたくない」の場合は、同じ「食べる」でも「イペ ipe」(自動詞)という別の言葉を使わなければならないのです。

使う場所を間違えるとおかしいアイヌ語になってしまいます。よく意味を考えて、目的語が必要なら他動詞、不必要なら自動詞を使う必要があります。「エ e」と「イペ ipe」のように、同じ「食べる」でも自他で形が全く違うものはそれほどたくさんはありませんが、使い分けに少しずつ慣れて行く必要があります。

例 題

次の空白に適切なのは、エ e「食べる」(他動詞)かイペ ipe「食べる」(自動詞)か。

オハウ () ヤン。
ohaw () yan.
おつゆ 食べる なさい 「おつゆを食べなさい。」

MEMO

アイヌ語⑤ ペウタンケ

消防車やサイレンがなかった時代、火事や事故があったときには女の人が「ホー、ホー」と叫び声を出していたそうです。木下信子フチは、火事があって御腰(おこし=腰まき)を振りながら、なんとも言えない声で叫んで、そのうち大勢の人が集まって来たのを見たことがあるそうです。

例 文

(1) チェブ アコイキ クス パイエアン ロ。
cep a-koyki kusu paye-an ro。
魚 私達が-獲る ために 行く-私達が よう

「私達は魚を獲りに行きま
しょう。」

(2) マカナク アカル ワ チェブ アコイキ シリ アン？
makanak a-kar, wa cep a-koyki siri an?
どう 私達ができる て 魚 私達が-獲る 有様 ある

「私達はどうやって魚を獲
ろうとするとところなのか。」

(3) ウライ アニ チェブ アコイキ。
uray ani cep a-koyki.
やな で 魚 私達が-獲る

「私達はやなで魚を獲る。」

単 語

アイヌ語		日本語訳	備考
ア	a-	私達が、私達は	(他動詞に付く)
アニ	ani	で	
アン	-an	私達が、私達は	(自動詞に付く)
アン	an	ある、いる	
ウライ	uray	やな (魚を獲る仕掛け)	
カル	kar	する	
クス	kusu	(ものを)食べる (自動詞)	
コイキ	koyki	獲る	
シリ	siri	有様、様子、~するところ	
チェブ	cep	魚	
パイェ	paye	行く	
マカナク	makanak	どう	
ロ	ro	よう	
ワ	wa	て	

MEMO

解 説

「私が、私は」は「ク ku-」もしくは「ク k-」(ただしエ e、ア a、オ o、ウ uで始まる動詞に付く時。それぞれ連音して、「ケ k-e」、「カ k-a」、「コ k-o」、「ク k-u」と発音される)、「お前が、お前は」は「エ e-」という独立性が低い「人称接辞」で表されることは既に学びました。また、前の課ではアイヌ語では自動詞と他動詞の区別が非常に重要だ、ということも学びました。これらをふまえて、この課ではさらに先に進むことにします。

「私達が、私達は」という「複数」の意味を表したい時、どうすればよいのでしょうか。実は、「私達が、私達は」という意味を表す時、アイヌ語では相手の動詞が「自動詞」なのか、「他動詞」なのかによって全く異なる形式が使われます。目的語を取らない「自動詞」(パイェ paye 「行く」のようなもの)に対しては、後ろに「アン -an」という形式を付けます。これに対して目的語を取る「他動詞」(コイキ koyki 「獲る」のようなもの)に対しては「ア a-」という形式を前に付けます。

自動詞か他動詞かという動詞の種類によって「私達が、私達は」に別々の形式が使い分けられて、しかも一方は前、他方は後ろに付く、という規則は、大変不規則で覚えにくいものと言えます。世界にたくさんある言葉の中にも、そんなに普通にはないかもしれない難しい規則です。慣れるまではなかなかなじめないかもしれませんが、繰り返し練習してマスターしてください。

例 題

「私達が~する」という意味の形式にしてください。その動詞が自動詞ならば「アン -an」を後ろに付け、他動詞であれば「ア a-」を前に付けます。

1) パイェ paye 「行く」

2) オ o 「乗る」

アイヌ語⑥ カムイノミ

母から聞いた話ですが、祖父はお正月やお祭、馬を飼ったときなど何か行事があるたび、ストーブの炉ぶちのところにおきを置いて火の神様にお祈りをしていたそうです。火の神様はアイヌ民族にとって身近な存在で、人間の言葉を神々に伝達する重要な神様です。

例文

(1) サッポロ ウン パイエアン ロ。
Satporo un paye-an ro.
札幌 へ 行く-私達が よう

「札幌へ行きましょう。」

(2) チブ アオ
cip a-o.
舟 私達がー乗る

「私達は舟に乗る。」

(3) ヒナク ワ エチアルキ シリ アン?
hinak wa eci-arki siri an?
どこ から お前達がー来る 様子 ある

「お前達はどこから来たところなの?」

(4) トアン クル ウタル アプカシ ワ
toan kur utar apkas wa
あの 人 達 歩く て

ヒナクン パイエ シリ ネ ヤ カ
hinak un paye siri ne ya ka
どこ へ 行く 様子 である か も

ケランペウテク。
k-eranpewtek.
私かー知らない

「あの人達が歩いてどこへ行くところ
であるのかも私は知らない。」

単語

アイヌ語	日本語訳	備考
アプカシ	apkas	歩く
アルキ	arki	来る*

*実際の発音はむしろ「アリキ(アにアクセントがあるのでアが高く発音される)」に近いのですが、r の音の場合によっていろいろなカナで書くのは不統一なので、実際の音とは無関係に統一的に「ル」で書いています。発音する時は「アリキ」でも、カナで書くときは「アルキ」と書く習慣になっている、ということです

アイヌ語	日本語訳	備考
アン	-an	私か、私は
アン	an	ある、いる
ウタル	utar	達
ウン	un	～へ
エチ	eci	お前達が、お前達は
カ	ka	～も
クル	kur	人
ケランペウテク	k-eranpewtek	私か知らない
サッポロ	satporo	札幌
シリ	siri	様子、有様、～するところ
トアン	toan	あの
ネ	ne	である
パイエ	paye	行く
ヒナク	hinak	どこ
ヒナクン	hinak un	どこへ
		(二つの言葉からできていますが、発音上は一続きに発音されるのが普通です。)
ロ	ro	～よう
ヤ	ya	～か
ワ	wa	～から
ワ	wa	～て

解説

「私か」に対する「私達が」は既に学んだように、自動詞の場合は動詞の後ろに「アン -an」を付け、他動詞の場合は動詞の前に「ア a-」を付けます。なお、「お前か」に対する「お前達が」は「エチ eci-」を動詞の前に付けます。「彼らが、それらが」の場合は動詞に何も付けません。これは単数の場合に何も付かなかったのと同じです。なお、「私達が」には、「アシ -as」(自動詞に付く)、「チ ci-」(他動詞に付く)という形式もありますが、これについては後でまた説明します。

例題

適切な形にしなさい。

- 1) 私達が歩く (apkas 「歩く」)
- 2) お前達が歩く
- 3) 彼らが歩く
- 4) 私達が獲る (koyki 「獲る」)
- 5) お前達が獲る
- 6) 彼らが獲る

吉村冬子 フチ

オツホル オツホへ、 オツホル オツホへ
ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe

リクン カント オロワ オツホル オツホへ
rikun kanto orwa ohhoru ohhohe
高い空から

シント ランワ エク ナ
sinta ranwa ek na
揺りかごが降りてくるよ

シント オッタ モコル ヤン オツホル オツホへ
sinta otta mokor yan ohhoru ohhohe
揺りかごで寝なさい

エアニ ポロ ヒタ オツホへ
eani poro hita ohhohe
あなたが大きくなった時

ピルカ ニシパ ネ エアン クス ネナ オツホル オツホへ
pirka nispa ne ean kusu nena ohhoru ohhohe
立派な男性になるよ

カムイ ヌカル ワ アン ナ
kamui nukar wa an na
神様は見ているよ

シント オッタ エチシ ヤクン オツホル オツホへ
sinta otta ecis yakun ohhoru ohhohe
揺りかごで泣いたら

ウェンカムイ ホサリ ワ オツホへ
wenkamuy hosari wa ohhohe
悪い神様が振り向いて

イシトマ アン ナ モコル ヤン オツホル オツホへ
isitoma an na mokor yan ohhoru ohhohe
恐ろしいから寝なさい

イテキ チシノ モコル ヤン
iteki cisno mokor yan
泣かないで寝なさい

オツホル オツホへ、 オツホル オツホへ、 オツホル オツホへ
ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe ohhoru ohhohe

単語

アイヌ語		日本語訳	備考
リクン	rikun	高い	
カント	kanto	空	
オロワ	or wa	から	
シント	sinta	揺りかご	
ランラン	ranran	次々と降る	
エク	ek	来る	
ナ	na	よ	
モコル	mokor	寝る	
ヤン	yan	しなさい	
エアニ	eani	お前	
ポロ	poro	大きい	
ヒタ	hita	した時	
ピルカ	pirka	立派な、良い	
ニシパ	nispa	男性	
ネ	ne	である	
エ	e-	お前	
アン	an	ある、いる	
クス	kusu	ので	
ネナ	nen	するんだよ	
カムイ	kamuy	神様	
ヌカル	nukar	見る	
チシ	cis	泣く	
ヤクン	yakun	ならば	
ウェン	wen	悪い	
ホサリ	hosari	振り向く	
イシトマ	isitoma	恐ろしい	
イテキ	iteki	するな	

アイヌ語⑦ 口げんか

夫婦ケンカや姉妹ケンカをしたあと、何か失敗すると「ざましろ」と言われることがあると思いますが、私たちの祖母や祖父もケンカした後、お互い失敗するのを見ては、「パラセコロ」とよく言っていたそうです。